

【開催予告】第11回司法矯正領域研修会

＜企画主旨＞

低年齢の非行について考えていく中の一つに、依存（addiction）の問題が挙げられます。依存の問題は快感への渴望やその中毒性により生じ、燃え尽き体験や厳罰化がその対処だと考えられる時期もありました。しかし現在は心の問題として扱い、我々臨床心理士にその治療や対応を求められるようになっています。

今回、司法矯正領域委員会では非行や犯罪の背景といった視点から「依存」の問題を捉え、臨床心理士がどのように関わり役割を果たしていくのかについて、2日間にわたって取り上げます。

1日目の研修では、児童思春期の子どもたちを主な対象とした依存の基礎的なメカニズム、非行の背景として依存の問題、司法矯正領域の臨床心理士がどのように関わるべきか、など講義いただきます。2日目は特に「ネット・ゲーム依存」に話題を絞り、その理解と治療や対応について学びを深めていくことを予定しています。

司法矯正領域の先生方はもちろんのこと、教育や病院臨床、福祉領域の方々など幅広い現場の臨床心理士に役立つ研修になることを願っています。

なお、日本臨床心理士資格認定協会の認める更新ポイントとしては5時間の研修が必要ですので、この研修の場合2日間の研修を合わせて受講する必要があります。

第4期前期司法矯正領域委員長 高橋 幸市

【プログラム】		
11月28日(土) 10:00～12:00 (2時間)	テーマ	「依存症の理解と対応 ～司法領域における児童思春期を対象に～」
	講師	松本 俊彦
	所属	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部部長
	内容	司法領域に携わる心理職へ、総論的に依存のメカニズムに触れるだけでなく、児童思春期における依存の問題に携わる上で念頭に置くべきことやハームリダクションについてご講義いただく。
司会:渡邊 悟(徳島文理大学/司法矯正領域委員会 副委員長)		
12月5日(土) 13:00～16:00 (3時間)	テーマ	ネット・ゲーム依存の理解と対応の実際
	講師	北湯口 孝(講師出演交渉中)
	所属	独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 心理療法士
内容	“ネット・ゲームの依存の状態とは何か”という基本的な理解から、病院臨床でどのような治療・対応がなされているかをご講義いただく。ネットゲーム依存への治療プログラムの中で使用される実際のワークの体験や、実際の事例を用いたグループ検討なども予定されている。	
司会:遊間 千秋(駿河台大学/司法矯正領域委員会 委員)		

参加募集開始までしばらくお待ちください